

| | |
|-------------|--|
| 研究課題名 | 難治性創傷に対して局所陰圧閉鎖療法を行った患者に対する後方視的な研究 |
| 研究責任者名 | 広島大学大学院医系科学研究科外科学 教授 大段 秀樹 |
| 研究期間 | 実施許可日 ～ 2034年12月31日 |
| 対象者 | 実施許可日から2033年12月の間に、広島大学病院外科で難治性創傷に対して局所陰圧閉鎖療法を受けられた患者さん |
| 意義・目的 | 局所陰圧閉鎖療法(Negative pressure wound therapy:NPWT)とは、既存治療に奏功しないあるいは奏功しないと考えられる難治性創傷に対して、NPWT 機器を用いて管理された陰圧を付加し、創の保護、肉芽形成の促進、浸出液と感染性老廃物の除去を図り、創傷治癒の促進を目的とする治療法です。NPWT は臓器と交通する瘻孔に対して禁忌とされてき、近年では縫合不全等の非適応症例に対しても NPWT を工夫して使用する報告が散見され、その有用性は高くなってきています。そこで、当科における既存治療に奏功しない難治性創傷に対して、NPWT による治療例を後方視的に検討します。 |
| 方法 | 本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、体重、性別、血液検査、画像検査、予後等です。 取得した情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。 利用または提供を開始する予定日：本学における実施許可日（2023年7月28日）以降 |
| 共同研究機関 | ありません（外部への試料・情報の提供は行いません） |
| 試料・情報の管理責任者 | 広島大学病院 消化器・移植外科 教授 大段秀樹 |
| 個人情報の保護について | 調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報や、試料に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。 |
| 問合せ・苦情等の窓口 | 〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-5222 広島大学病院 消化器・移植外科 准教授 小林剛 |